

コロナ禍における社会不適合者の仮想排除とその効果について

(1) 新型コロナウイルスで変わった人々の生活

近年、新型コロナウイルスが蔓延・感染拡大が続いている。その影響も、行政・飲食店をはじめとして大きく見られている。思えば¹2020年中国の武漢で原因不明の肺炎として発生・発表され、人人感染が見られ、死亡者が出た。それから一年が過ぎた今現在(2021年5月)でもその脅威は変わらず、日本も含め世界中で猛威を振るっている。

新型コロナウイルスの影響で人々の生活は大きく変わった。常にマスクをし、外出も前よりも各段と減少している。仕事でも「リモートワーク」が生まれ、学校では休校措置がとられ、飲食店でもテイクアウトやデリバリーなど変化が生み出されている。

それらの影響で人々が家にいることが必然的に多くなった。そこでも「お家需要」という言葉も出てきたように家での過ごし方の変化、「Uber Eats」をはじめとする配達サービスという業種・形も増えてきた。

もちろん、日常的なことだけではない。スポーツでも大会の延期・中止、無観客試合という措置がとられ、実際大きなところでは東京オリンピックは延期されて従来の開催よりすでに遅れ、開催も危ぶまれている状況である。

海外渡航や帰国でも新型コロナウイルス感染拡大を防ぐために入国禁止措置、隔離措置などのルールが定められた。技術力では今や簡単に海外に行ける時代にも関わらず日本から出ることもままならない。これは大きな変化である。

医療についても忘れてはいけない。変化したという点では医療が一番に違いないだろう。新型コロナウイルス発生当初は未知のウイルスで対応も不明である中、常に患者につきっきりで医療に従事していたのだろう。重症病床使用率が100%を超えた都道府県もある。そんな中で勤務時間も間違いなく増え、自分たちが感染しないように努めることも必要である。筆写がこの論文を書いているときもみんな大きな変化に立ち向かっている。

これらのことから分かるように我々は新型コロナウイルスによって変化を余儀なくされ、なんとかして適応しようとしている。これからはしばらくは試行錯誤をしながら大きな変化の流れに適応が求められる。

(2) なぜ批判対象が行政なのか

ここで本題である自治に目を向けたい。前述のとおり我々が様々な状況での適応を求められているが、それを全体的にマクロに考えて適応の流れを作ることが自治の役割であると考えている。ここでの自治で主に考えられるのが行政である。例えば、新型コロナウイルスのワクチンの配分・摂取までの流れは地方自治体や国が主となっている。「緊急事態宣言」や「各世帯2枚のマスク配布」、「10万円給付金」は実際そのように行われた。

また、これら行政の行動は常に日本全国で注目を受ける。ニュースやSNSでは連日、新型コロナウイルスのことはもちろんそれに対する行政の対応が報道されている。国民の目が集中してしまうことで非難も受ける。もちろん、対応に不備があったりミスがあったりは人間だからする。それを問題と認識することも批判することも必要なこ

とであると思うが、ここに自分は疑問が生じてしまった。なぜ行政(自治を行う側)だけに非難が集中しなければならないのかということである。行政が対応を迫られている理由は課題解決・国民を守る・生活をスムーズに回すなど多岐にわたるが、これらはプラスの方向に向かわせるという点で一致していると考えている。そんな中で批判が生じてしまう理由の一つは同じ方向の中での考え方の相違だと考えていて、他にも理由は考えられるが自分が注目したいのはそこではない。

注目したいのは対応の原因についてである。今回の新型コロナウイルスを例に考えると行政は感染拡大を防ぎ、人々の生活を助けることを目的として対応する。そこに「新たな課題」が見つかり対応を迫られる。この「新たな課題」にはトラブル対応などが含まれる。ここでトラブルに注目したい。新型コロナウイルス期間内のトラブルとして真っ先に思いつくのは「クラスター」「夜の街」などであろうか。これらの問題を受けて「緊急事態宣言」「業種別ガイドライン」「外出自粛呼びかけ」「イベント等の延期・中止・無観客」等を行った。今も継続しているものも多いが果たして全員が守って責任を果たしていたのかは甚だ疑問である。

また、これらを守らない人の中で直接批判を受けたり罰せられたりしている人はほとんどいないと思われる。今回自分が問題視しているのはこのような人たちである。言い換えれば「ルールを守らず、課題・問題の諸悪となるような人」である。

このような人たちのことを「社会不適合者」と仮に呼ぶことにする。身近な例をあげる。筆者は大学に通学するときなどで公共交通機関(電車・バス等)を利用することが頻繁にあるが、この新型コロナウイルス蔓延の真ただ中である時期にもかかわらず、マスクをしていない人をたびたび見かける。おそらくこの体験は自分だけではないと思われる。

この例についてもう少し細かく見てみると、世の中全体が新型コロナウイルス蔓延と戦うためにマスクや手洗い消毒などが有効であるという流れから自然とルール化された。最近では飲食店などのガイドラインでは罰則が設けられるなどはしている場合もあるが、自分達一般市民には基本的には罰則はないし、悪くても白い眼を向けられる程度であろう。法律的に見ると咎められることはないが、悪い影響を及ぼす行為であると考えられる。また、新型コロナウイルスの蔓延を防ぐという全体の流れ・動き・ルールに対する「不適合」な行動と言える。

(3) 「仮想排除」とは何か

「社会不適合者」の例を提示したところで、この論文での主張に入っていきたい。まず、「社会普適合者を仮に排除していたら今の新型コロナウイルスの影響を抑えることができていたのではないか」ということである。端的に言えば全ての人が行政の示したルール、新型コロナウイルスと戦う流れを守って行動していればここまで拡大することはなかったのではないかと考える。今は例外(ここでいう社会不適合者)が多いため、ここまで拡大し、行政が作った流れが間違っていたのではないかという疑念が我々に生じ、批判が起きてしまっていると考えている。行政の対応に問題があるというおそらく一般的な見解ではなく、行政の行動が正しいと仮定してそれに従う側の行動に問題があるという見解での主張となっている。

タイトルの「排除」を実現することは難しいし、実際には不可能であろう。まして

は「排除」は倫理的にどうなのかという問題は生じてしまう。その上での「仮想」である。「排除」を行ったときにどういう効果が見込めるか、新たな課題が出てくるかもしれない、それらを考えていこうというものである。その後新型コロナウイルスの脅威をなくす理想に近づくことを目的として進めていく。具体的には、新型コロナウイルスが武漢で発生してからの実際に起きた事例をピックアップし、その問題をめぐる社会不適合者を仮定し、それを排除できたときの効果を仮想し考察するという形をとりたい。そのための「仮想」であり国民全員が同じ方向を向く手助けになってくれることを願っている、ということに留意して先に進みたい。

(2) 今回の「社会不適合者」の定義

この論文のテーマであり、タイトルにも入っているこの「社会不適合者」という言葉であるが、実に曖昧な言葉である。実際にこのような言葉があるということすら分からない。それぞれの言葉に分解してみても「社会」「不適合」と解釈が人によって違い、曖昧なままである。そんな中でこのような言葉をあえて用いていることで自分なりの定義を生み出したいという意図がある。ここでは社会不適合者を「ルールをなんの理由もなく守らず、全体の流れの妨げとなっている者」と定義する。今回のテーマではコロナ禍におけるルールに限定したい。例えばマスクであったり、大人数での会食禁止等であったりである。新型コロナウイルスは一部のルールに沿わない人間によって対応が遅れてしまっている。要するにコロナがここまで長く猛威を振るっている原因に注目したものである。

(3) 事例：デマや中傷

新型コロナウイルスが日本に入ってから、ほとんどの人が正確な情報を得ることができておらず、認知も曖昧なものとなっていた。これは考えてみれば当たり前のことである。医療従事者にとっても未知のウイルスであったし、現在(2021年6月)になってやっとワクチンが世界で作成・摂取という段階に来た。ここまで新型コロナウイルスが中国武漢で確認されてから約1年半という長い期間を擁しているが、まだまだ変異ウイルスなどの課題は増え続けているし解決には至っていない。最初のうちは正確な認知が一般人にはできないはずである。当時は筆者もこんな事態になるとは思ってもいなかったし、そこまで危険なウイルスという風には捉えていなかった。そうした状況の中でデマや中傷が出てきた。ここでの社会不適合者は議論する余地もなくデマや中傷をした人である。「仮想排除」したときのことを考えていこう。

まずはデマについていろいろな種類が考えられる。すぐに考えられることは、感染の有無や感染経路、対策の方法などであろうか。これらは知識を持たない人の憶測によって生まれていることは明白であるが、それらによってどんな問題が生じたのであろうか。一番の問題は大きな混乱が生じたことであると考え。情報の取捨選択が難しくなってしまったためである。自分たちは何が正しい情報なのか、感染対策に有効なことは何かということの判断ができずにいた。実際、マスクを常に装着するようになったり、飛沫感染・接触感染²が主だということだったりを知ったのは感染拡大してしばらくしてからだったように思われる。したがって、これらの憶測の発言等を仮に

「排除」した場合、新型コロナウイルスへの対応が早くなったり、混乱は抑えられより慎重に行動することができたりすると考えられる。これら考えられる結果は感染拡大防止につながられるのではないかと考える。

次に中傷について特に影響・ダメージを受けてしまっているのは飲食店であろう。特に印象に残っている事件としては飲食店への落書きである。もちろんこれだけではなく様々な中傷が行われてしまった。中傷を真に受ける人は少ないとは思いますが少なからずいる。真に受ける人がほとんどいなかったとしても客足は少なくなるなどの風評被害、それに伴う経済的ダメージもある。さらにこのようなことに対応するのも自治体をはじめとする行政である。さらに多くの対応に追われている中でのこの無駄と言える対応は確実に問題である。これらの考えられる問題を基に中傷を「仮想排除」とするとデマのときと同じように新型コロナウイルスへの対応の時間的余裕が生まれ、飲食店をはじめとする店の経済的問題も緩和されると考えられる。

(4)事例「Go to トラベル」

「Go to トラベル」というサービスは賛否両論が見られた注目度の高いものであったと思う、むしろ批判が多かったようにも思える。今もなお議論がなされるほど重要な政策である。この政策のポイントは二つあると考えている。経済面と感染対策面である。この二つは誰もが考えることができるだろうし行政もこの二つの兼ね合いを考えて実行しているはずである。結果的には批判の方が多くなっていて失敗とみられることが多くなっているが、もし「Go to トラベル」が感染拡大に関連がなかったとしたらそれは成功として扱われていたのではないかと仮想している。想定されていた得られる効果の点だけで見ればとてもすばらしいものであると考えている。

こういうことを考えた時に経済面では良い効果しか考えることができないし議論する必要がないと考えている。ここで考えるべきは感染対策面であろう。感染対策が出来ていないからこのような感染拡大につながってしまっている³。ではどこで誰が怠っていたのだろうか。実際、自分も「Go to トラベル」を使って草津まで行ったという経験があるが、行った旅館や施設での感染対策は、筆者の主観になってしまうものの、しっかりしているように思えた。

考えてみれば感染対策がしっかりしているというのは当たり前のように思える。「Go to トラベル」で認可・使用しているということはそれなりに責任が生じるし、もしクラスターなんかが起こってしまったら損害は計り知れないことは容易に想定できる。そういうことを考えると「Go to トラベル」を提供している側が感染対策を怠っているとは考えにくい。となるとここでの「社会不適合者」は必然的にルールを守らない客側になるだろう。思い返すと客側への制限等を行われてなかったように感じた。ここまで感染と関連性がある以上、大人数での会食・マスク等を怠っている、ルールを守らない人がいるということを疑うのが自然だろう。そうと仮定して「排除」と考えられる効果はもちろん感染を抑制することである。さらにそれによって「Go to トラベル」の有用性が示され、本来期待されていた経済面での支援が見込めるなどのプラスの効果と考えられる。

結局、「仮想排除」をしたときに全体的にどんな効果が見込めるのか

前の事例で述べた通り、新型コロナウイルスの影響下で行政の責任・過ちだけではないことが分かった。本稿でいう社会不適合者の責任も少なからずあると考えている。新型コロナウイルスの影響がここまで長引くとは思っておらず、そうなった原因が必ずある。この状況ができるだけ早く解決することを望むなら全体が同じ方向を向き、誰一人として違う方向を向かないことが必要不可欠であると考えている。そのため、「仮想排除」を今回することで少しでも近づきたいということが本稿の目的であった。

結果を見ると少し強引な言い方になってしまうかもしれないが、経済的、社会的、その他さまざまな面で効果が見込めるものとなっていた。もちろん、こんなことができるはずもないし、許されるはずもないが今後の新型コロナウイルスへの対応・行動に参考になればいいと思っている。また、本稿を書くきっかけとなった「批判」について浅慮があったのではないかとも思える。行政が本当に悪いのか、他の可能性も考えようとしていない気がしてならない。本稿はそんな他の可能性の一つである。今もお猛威を振っている新型コロナウイルスに対抗するために我々はもっと考えを深め慎重に行動しなくてはならないと考えた。

¹ NHK・HP「特設サイト 新型コロナウイルス時系列ニュース 2020年1月6日」(2021年6月現在)。中国内陸部の湖北省武漢で、当時原因となる病原体が特定されていない肺炎が確認された。これを受けた厚生労働省が渡航歴の申告を呼びかけるなど新型コロナウイルスへの初の対策行動を行い、ここから新型コロナウイルスの脅威がはじまったと言える。<https://www3.nhk.or.jp>

² 厚生労働省・HP「新型コロナウイルスに関するQ&A(一般の方向け)」(2021年6月現在)

この中で「一般的には飛沫感染、接触感染で感染」と記述がある。

<https://www.mhlw.go.jp>

³ NHK・HP「特設サイト 新型コロナウイルス時系列ニュース 2020年1月6日」(2021年6月現在)。日本医師会の中川会長が証拠等のはっきりしないがタイミング等を考えると間違いなく関与しているという趣旨のコメントをしたとある。

<https://www3.nhk.or.jp>